

# 強度行動障害の理解 I

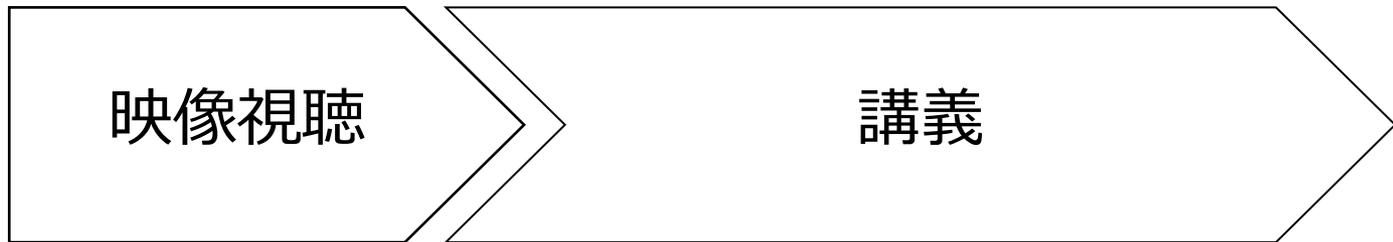
(社福) 嬉泉  
板橋区立赤塚福祉園

北川 裕

# この時間で学びたいこと

- 強度行動障害は生まれつきの障害ではなく、周囲の環境や関わりによって現れる状態です。
- 強度行動障害がなぜ現れるのかを知り、強度行動障害を予防することの重要性や改善するための考え方を学びます。
- 最終目標は、強度行動障害が改善されることではなく、強度行動障害が現れている人、強度行動障害が現れやすい人たちが、地域社会のなかで安心して幸せに生活してもらうことだということを確認します。

# この時間の流れ



- ① 強度行動障害とは（映像視聴含む）
- ② なぜ強度行動障害が生じるのか
- ③ 行動は学習の結果
- ④ 児童期の予防の大切さ
- ⑤ 適切な関わりをするために
- ⑥ 強度行動障害と社会参加
- ⑦ 誰もが幸せに生きていくことができる社会に  
（強度行動障害支援の意義）

映像視聽

# ① 強度行動障害とは

# 本研修の対象となる強度行動障害

障害支援区分3以上+行動関連項目10点以上  
(行動援護対象者)

行動上著しい困難を有する障害者等であって常時  
介護を有するもの

推計2.5万人

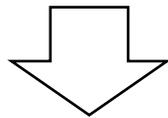
強度行動障害判定基準20点以上  
(旧強度行動障害者特別処遇事業対象者)

自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の  
乱れ、異食、多動など本人や周囲の人のく  
らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻  
度で起こるため、特別に配慮された支援が  
必要になっている状態

推計0.8万人

強度行動障害とは・・・

自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態



強度行動障害はもともと持っている障害ではなく、その人が陥っている状態

② なぜ強度行動障害が現れるのか

# あるショッピングモールでの出来事 困っているのは誰か？



Aさん

自閉スペクトラム症  
突然Bさんを押した

Bさん

たまたま通りがかりAさんに押された



Cさん

Aさん連れしてきたスタッフ

BさんとCさんが困っています

実は、Aさんも困っています



通りすがりのBさんを  
押したのはいけないこと

でも……

もしかすると？

自分の気持ちを目の前に通った子を押しと  
いう行動で表しているとしたら？  
とても苦しい気持ちだとしたら？  
何がいやなの？ 何ができないの？



うるさいのがきらい

見通しが分からない

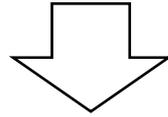
話し言葉で  
コミュニケーションができない



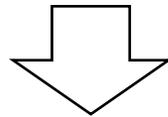
不安・不快・緊張

→ 押す = 気持ちが表示された行動

やむにやまれぬ気持ちで自分なりに行動する



それでも事態が改善されないと、激しい行動になり、固着化していく



強度行動障害の状態

③ 行動は学習の結果

強度行動障害と言われる行動のほとんどは、  
環境とのかかわりの中で学習された行動

## 『未学習』

幼少期や学齡期において、適切な行動を身につける力があるにもかかわらず、周囲の無理解や誤解から生じる不適切なかかわりによって身につけることができないままに育ってしまうこと。

未学習であるために、その場に相応しい行動がとれなかったり、自分の希望や気持ちを適切な方法で周囲に伝えることができない。



## 『誤学習』

未学習のままではいると、本人は何とか自分の希望や気持ちを伝えようとして自分なりの行動をとる。その行動が他害や物壊しのようなかたちで現れると、周囲はその行動を無理やり制止したり、逆に本人の希望することを何でも認めてしまう。

すると、本人はますます激しい行動で自分の希望や気持ちを表したり、どんな時もそのような行動で自分の希望や気持ちを表すようになってしまう。

(=強度行動障害)



強度行動障害が現れている人たちの中に、一定の割合で自閉スペクトラム症の人たちがいる。

自閉スペクトラム症の人たち・子どもたちは学べないのではない。

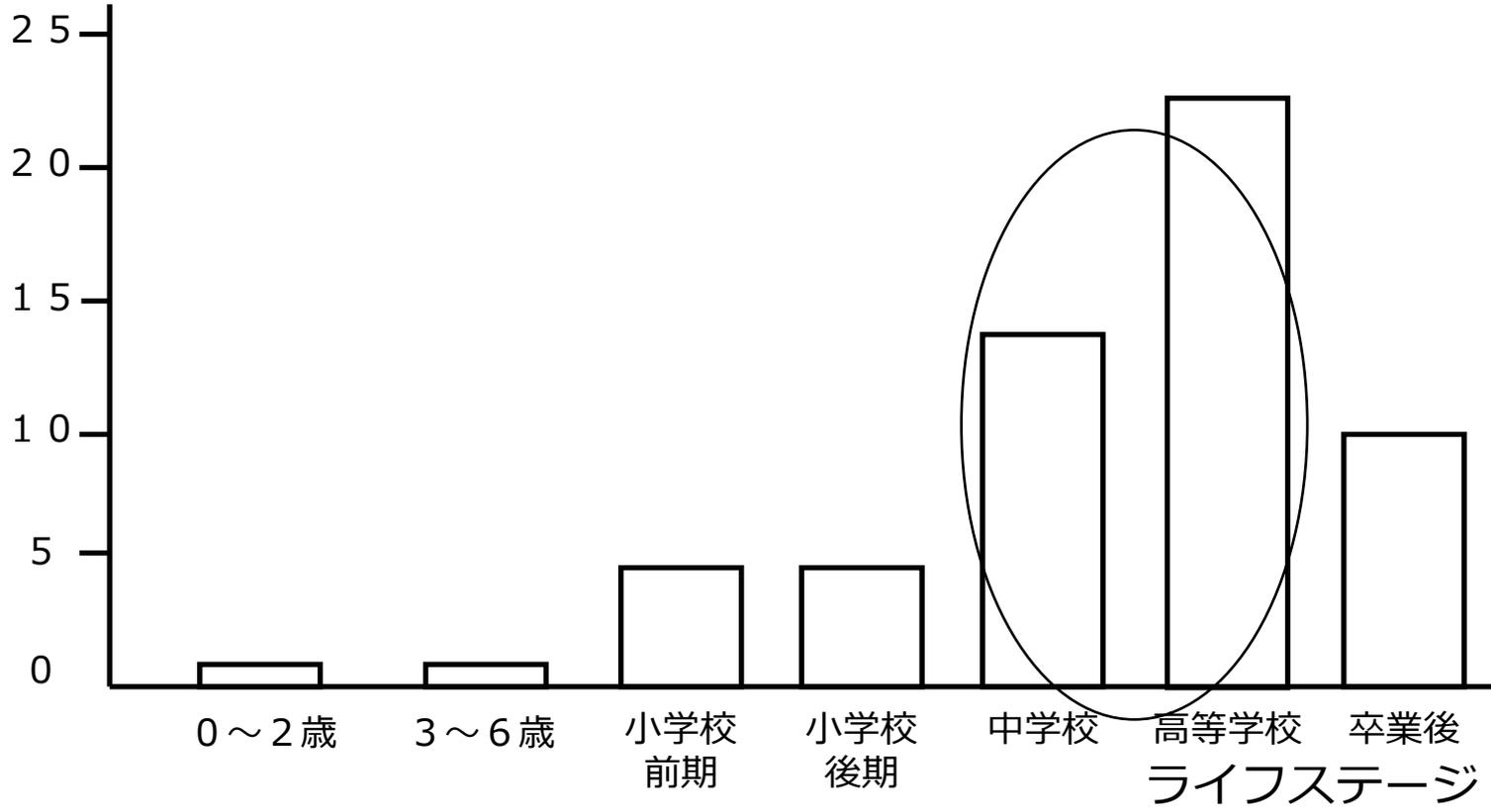
学ぶ力は持っているが、本人に分かりやすく学ぶ機会が少ない。

本人に分かりやすい学びかた（学習スタイルとも言う）に合わせて、適切な行動を学んでいくことが大切。

## ④ 児童期の予防の大切さ

最も行動障害が重篤であった時期の度数分布

人数

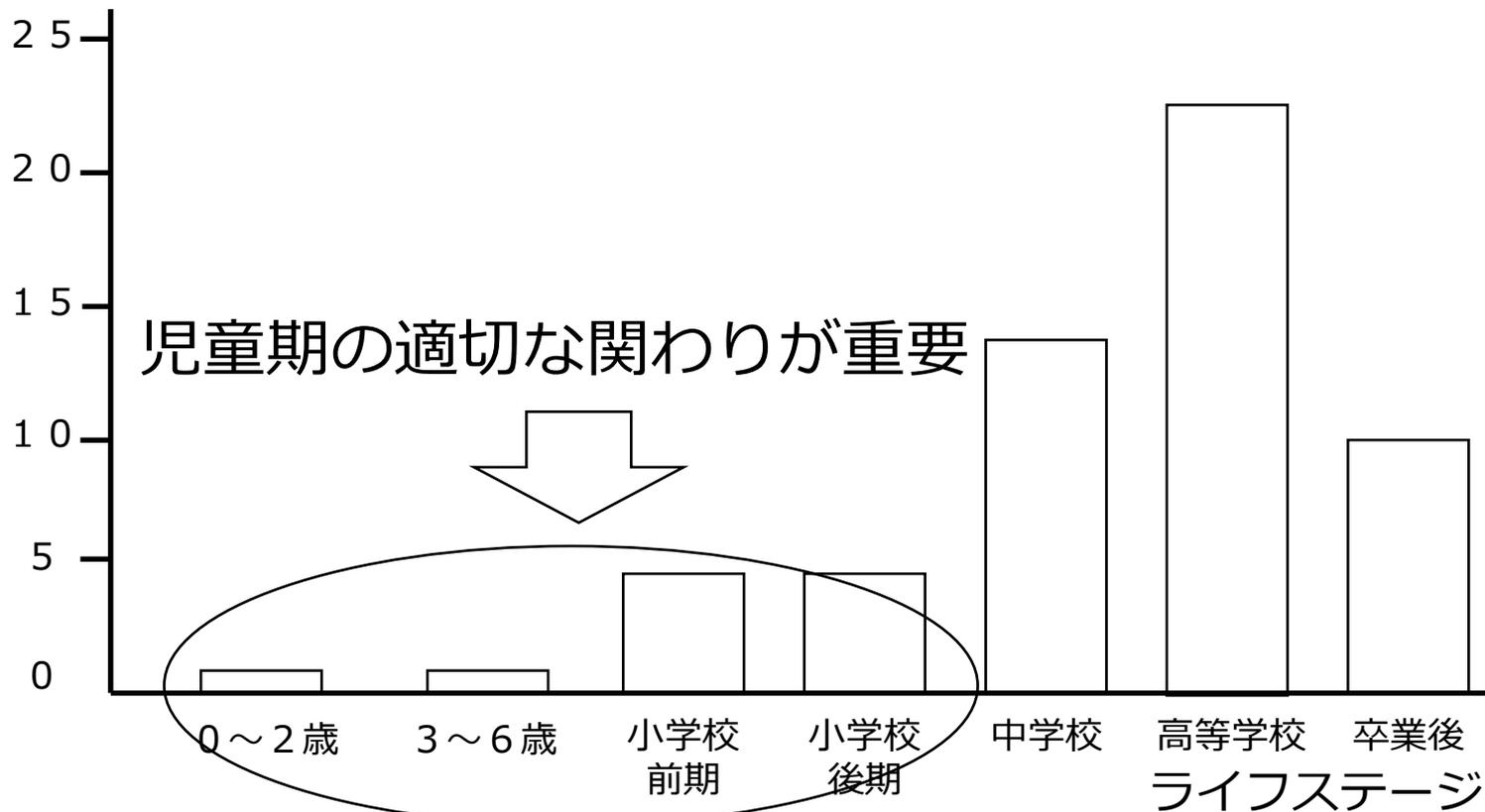


自傷、他傷、物壊し、騒がしさ、粗暴さ、パニックについては、周困とのかかわりや対応によって学習してきた結果であると考えられる。

これらの行動の多くが要求や注目、回避や拒否などのコミュニケーションの機能を有しているとみられ、幼児期からの補助代替手段を含めたコミュニケーションの獲得が望まれる。

# 最も行動障害が重篤であった時期の度数分布

人数



児童期の適切な関わりが重要

児童期に本人にわかりやすい学び方で、将来の生きていく力（生活スキル、コミュニケーションスキルなど）を学ぶことが大切。

児童期の適切な関わりが、将来の「強度行動障害の予防」につながる。

成人期においても、適切な関わり方で強度行動障害の予防や改善をすることができる。

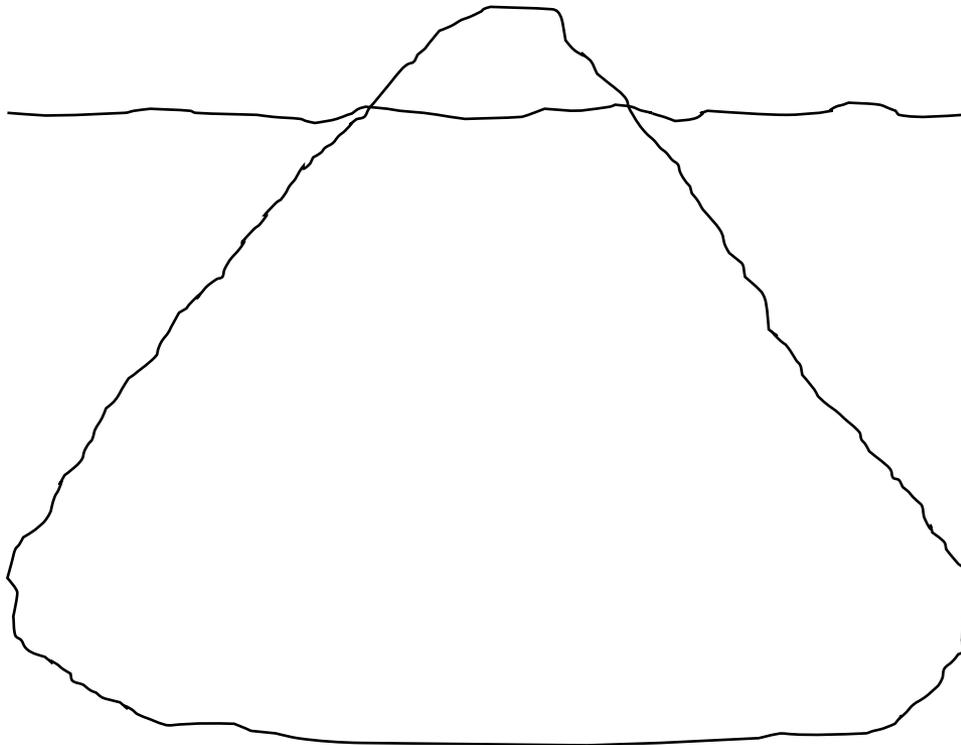
⑤ 適切な関わりをするために

# 行動の背景を知るための「冰山モデル」

「冰山の一角」

= 表に表れている部分はごく一部

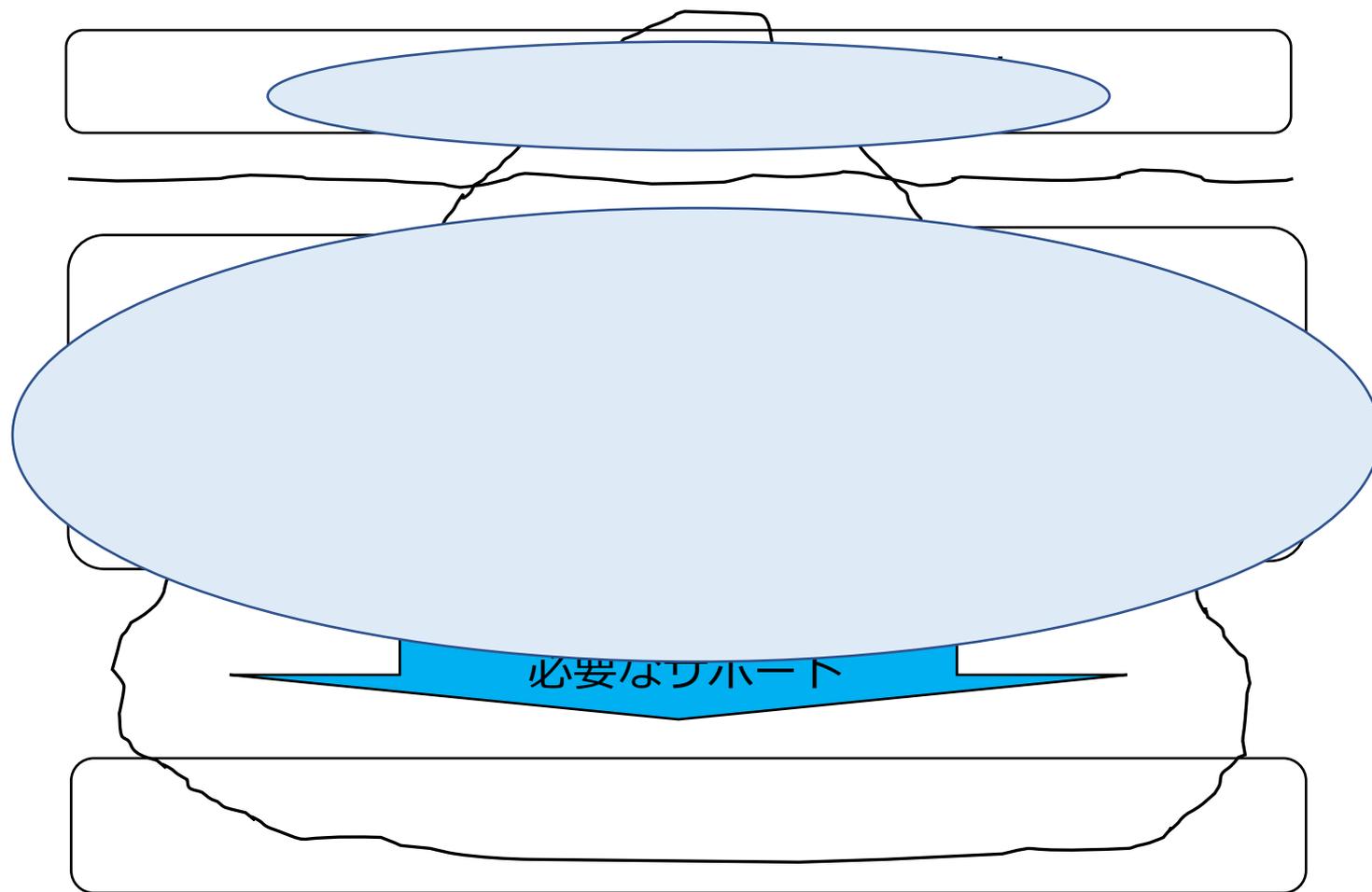
→ 目に見える部分だけに対応しても問題は解決しない



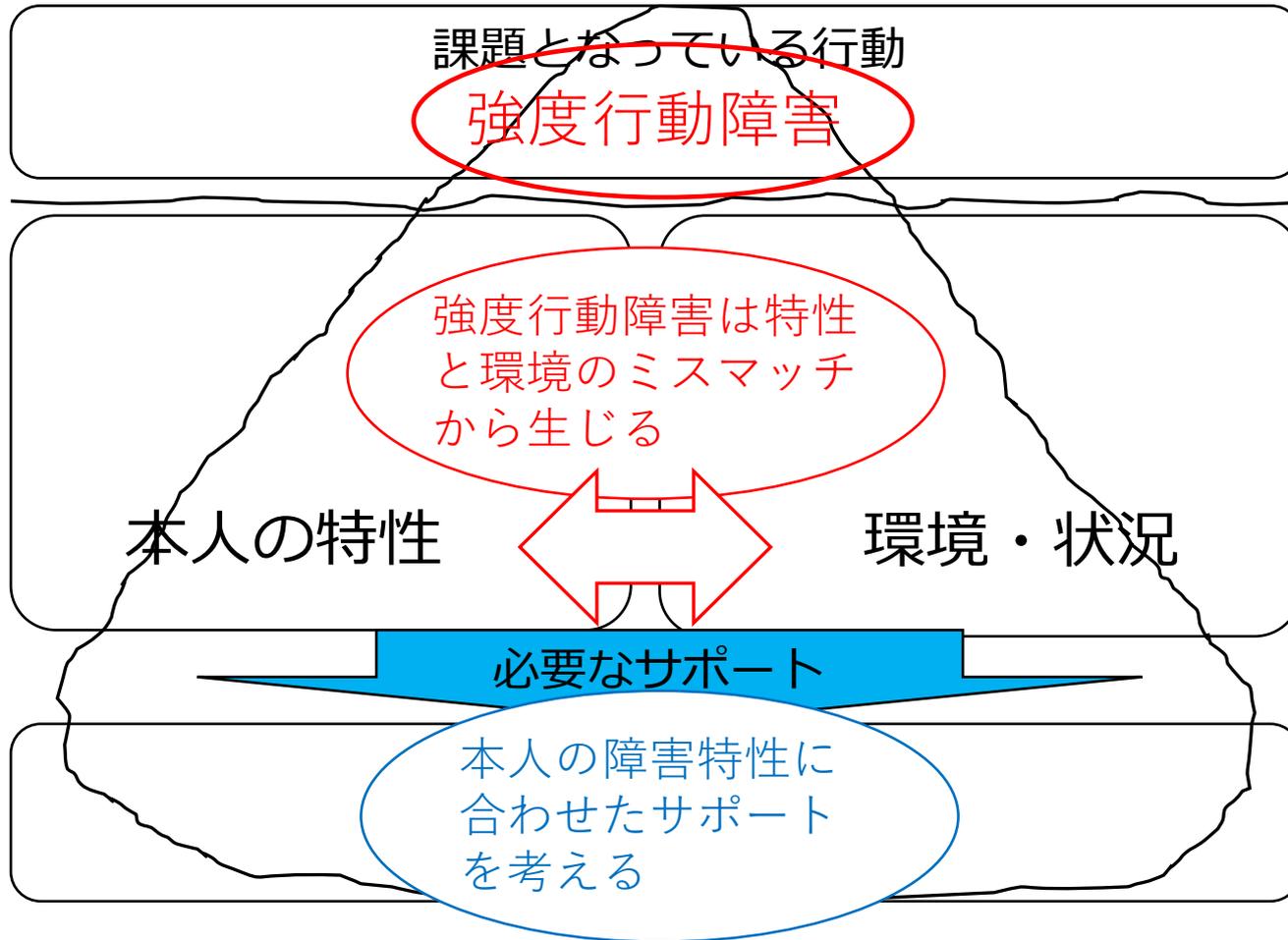
水面下に大きな塊がある  
= 目にみえない部分

目に見えない部分を理解してアプローチすることで、表面に出ている問題が小さくなる。

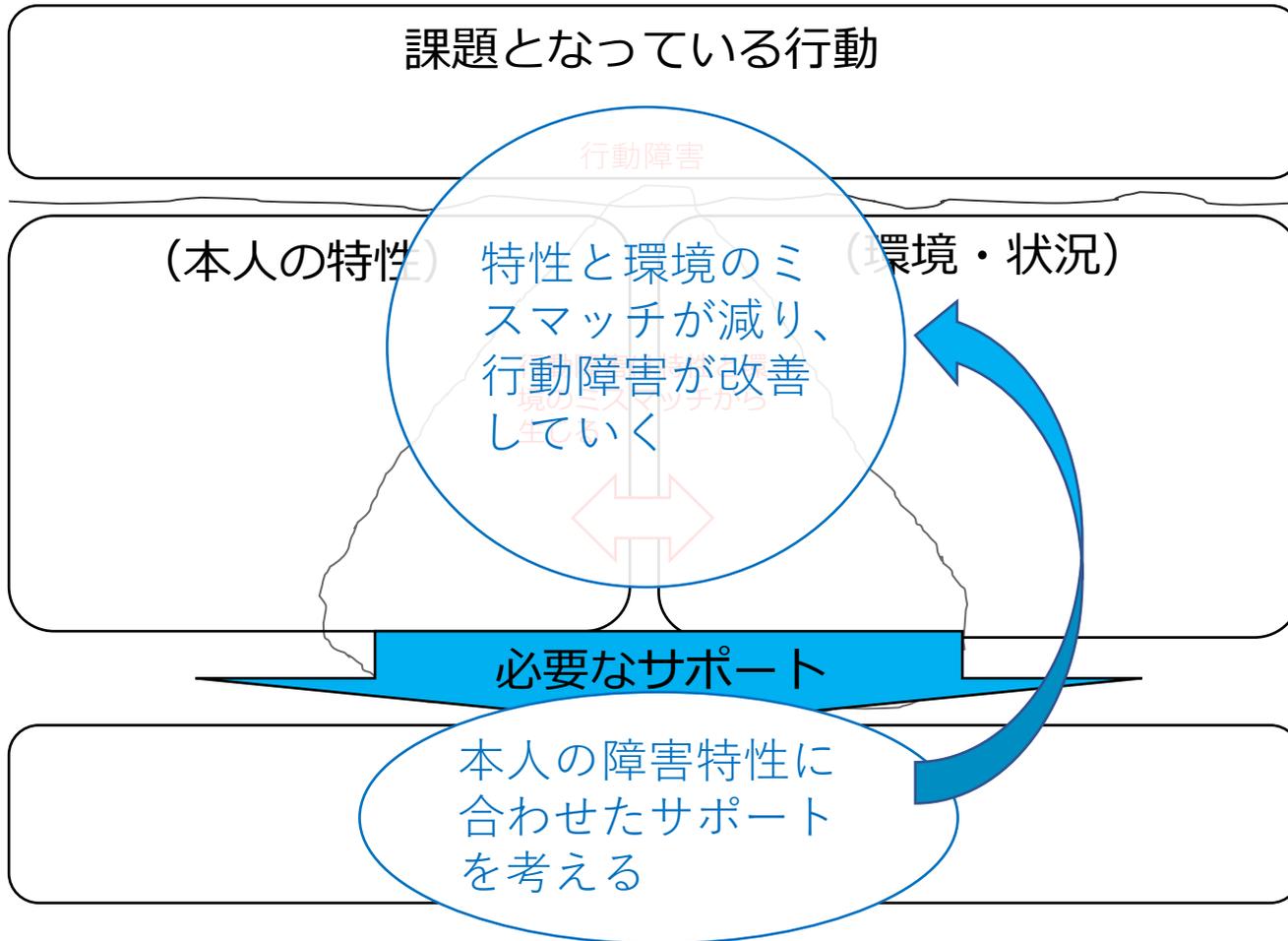
# 氷山モデルシート



# 冰山モデルシート



# 冰山モデルシート



## ⑥ 強度行動障害と社会参加

## 適切な支援がない場合

行動障害が現れやすい人



「苦手な刺激」「分からない」「伝わらない」が多い



適切な行動ができにくい



やむにやまれず行動で気持ちを表す = (強度) 行動障害



**社会参加が難しくなりやすい**

## 適切な支援がない場合（例題）

自閉スペクトラム症のAさん



「うるさいのがが苦手」「見通しがわからない」  
「話し言葉でのコミュニケーションができない」



「苦しさが続く」「対処できない」「助けてもらえない」



Bさんを押す = やむにやまれない気持ちが表れた行動



**Aさんの生活の幅が狭くなっていく**

- ・次からショッピングモールに行かせられない
- ・買い物に連れていけない

## 適切な支援がある場合

行動障害が現れやすい人



本人の特性に合わせて特別に配慮された環境・支援



「苦痛の軽減・解消」 「分かる」 「伝わる」



適切な行動 充実した活動 安定した生活



**社会参加が進む**

## 適切な支援がある場合（例題）

自閉スペクトラム症のAさん



「空いている時間帯に行く」「スケジュールを決めておく」  
「苦しい時のサインを決めておく」



「苦しさが少ない」「見通しが持てる」  
「苦しい時に助けを求めることができる」



落ち着いて買い物ができる



Aさんの生活の幅が広がっていく

- ・次もショッピングモールに行ける
- ・いろいろなお店でも買い物ができる

強度行動障害のある人や子どもは、  
「困った人」ではなく「困っている人」  
「困った子」ではなく「困っている子」

周囲の理解・配慮・支援によって、

強度行動障害は予防や改善ができ、

本人の生活の質があがり、社会参加の幅が広がる。

⑦ 誰もが幸せに生きていくことができる社会に

(強度行動障害支援の意義)

## 障害者権利条約（第1条 目的）

この条約は、全ての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し、保護し、及び確保すること並びに障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的とする。

## 障害者基本法（第1条 目的）

全ての国民が、障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるとの理念に則り、全ての国民が、障害の有無によつて分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現する...

強度行動障害が現れているために  
生活の幅や質が制限されてきた人  
たちがいる。

「強度行動障害が現れている人」

||

「合理的な配慮が必要な人」

この研修の目的は、

支援者が理解や配慮や支援の必要性や方法を学び、実践することで、強度行動障害が現れている人、強度行動障害が現れやすい人たちが、地域社会で権利が守られ、幸せに暮らすことです。